

2022年度（令和4年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学国語）

学校名 逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要		○全国・県とほぼ同等の結果。 ●「読むこと」には課題あり。漢字の書き取りも課題。
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○言葉の意味、表現技法等は全国・県とほぼ同等に理解している。わかりやすく表現を工夫することも過半数の生徒ができています。 ●漢字の書き取りについては課題がある。「喜んで」を正しくかけた生徒の割合は全国・県よりも低い。
	情報の扱い方に関する事項	○ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用して、自分の考えを書く問いでは、無回答の生徒が1割ほどいるものの、正答率は全国・県と同等である。
	我が国の言語文化に関する事項	●行書の特徴については全国・県とほぼ同等であるが、6割ほどの生徒が理解していなかった。 ○文字のバランス等については正しく理解している生徒が多く、8～9割の正答率となっている。
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	○話の進め方の良さを具体的に説明したものを選択する問題では、全国・県の正答率よりも優位に高い正答率であった。論理の展開を理解できていると考えられる。 ●スピーチの一部を呼び掛けたり問いかけたりする表現に直す問題では、2つの条件のうち、「実際に話すように」表現することができていない生徒が全国・県の割合よりも高く、正答率を低くしている。
	書くこと	（上記情報の扱い方時間する事項に同じ）
	読むこと	●物語の展開に沿って主人公の心情を読み取ることができていない生徒が多い。また、終末での主人公の心情を、話の展開を取り上げて説明する問題では、話の展開を取り上げることができなかった解答が多かった。全国・県と比較すると読み取る力に課題がある。
生徒質問紙 国語に関する設問 問49～問52		○8割近く生徒が「国語は好き」と思っており、9割を超える生徒が「国語の勉強は大切」「国語の授業はわかりやすい」「国語の授業で学習したことは将来役に立つ」と感じている。この気持ちを大事に、基礎・基本の充実を図っていく必要がある。

2022 年度（令和 4 年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学数学）

学校名 逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	○全国・県とほぼ同等の結果。「データの活用」については全国・県よりも良好。 ●十分に理解できていない層が厚く、理解度が二極化。無解答の割合も設問によってはかなり高い。
数と式	○2つの偶数の和について、文字式を使用して説明する問いの、具体的な数を用いて確かめる設問では全国・県と同等に多くの生徒が正答している。また、文字式を用いて説明ができていない生徒のほとんどは、そこから結論が成り立つための前提を考え、他にどのような場合が予想されるかを表現できている。 ●素因数分解、連立方程式などの基本的な設問での正答率が全国・県と比較して低く、課題がある。無解答率も高い。
図形	○平行四辺形の成立条件の予想について、常に成り立つかどうかを選択する問いでは正答率は50%以下ではあるが、全国・県と比較し遜色ない結果である。 ○三角形の合同条件についても多くの生徒が理解している。 ●三角形の基本的な性質や図形の合同を元に、ある角が常に 60° になること筋道を立てて自分の言葉で説明する問いでは、半数近くの生徒が無解答で、無解答率が全国・県よりも高かった。正答率の低さは全国・県と同等であった。
関数	○変化の割合の意味を理解している割合は全国よりも高い水準であった。 ○グラフや表から必要な情報を読み取ることも全国・県とほぼ同等であるが、座標を書くだけの問いに1割近い無解答があることが課題である。 ●グラフを元に問題解決の方法を説明する問いでは、全国・県の正答率も低調であるが、本校の正答率も低い。この問いについては説明不十分（説明の方向は正しいが条件を満たしていない）なものも多く、無解答率は全国・県と同程度であった。
資料の活用	○昨年度、授業研究で取り上げた単元でもあり、生徒たちにも楽しく学習した記憶が残っているのか、正答率は全国・県と比較しても1割以上高い結果となっている。コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選択しその根拠を説明する問題では、自分の言葉で説明することに全生徒が取り組んでおり、無解答はなかった。 ○箱ひげ図からデータの分布の特徴を読み取る問題も良好な結果である。
生徒質問紙 数学に関する質問 問53～問60	○数学が好きな生徒の割合は全国・県と同等で6割ほどである。 ●授業の内容がよくわからない2割ほどの生徒（割合は全国・県と同等）への槌入れが課題である。あきらめずに考えたり、簡単な方法がないかを探したり、公式や定義のわけを理解することに取り組ませていく必要がある。

2022年度（令和4年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（中学理科）

学校名 逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	○全国・県と比較してもほぼ同等。複数の設問で、全国・県よりも正答率が優位に高かった。 ●数学同様、十分理解できていない生徒も相当数居り、底上げが必要である。
「エネルギー」を柱とする領域	○物体が静電気を帯びる現象を過半数の生徒が理解しており、全国・県と比較しても良好な結果である。 ○実験結果の正しいグラフを選択する問いでも全国・県より良好な結果である。 ●結果の考察から妥当性を高めるために実験を改善する計画については、記述が不十分の解答が多く、正答率は低い。
「粒子」を柱とする領域	○水素の燃焼の化学式や、水素を燃料として使う仕組みについては全国・県と同等に理解できている。 ○液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象の選択や、実験結果を考察し、改善策を検討することも全国・県と同等である。 ●水素を燃料として使い続けるための大元としての太陽光の理解は全国・県と同様に低く、課題がある。
「生命」を柱とする領域	○昆虫であるアリと比較して、ある生物が昆虫であるかを説明する問いでは、全生徒が自分の言葉で説明している。説明不十分の解答もあるが、全国・県と比較しても正答率は高い。そのほかの問題もおおむね良好である。 ●アリが視覚情報を元に行列を作っているかどうかを調べる実験の考察では、条件に合う適切な記述ができない生徒が県と比較して多かった。
「地球」を柱とする領域	○地学については全国・県よりも正答率が高かった。特に玄武岩についての理解は県より1割以上高かった。地殻変動や堆積層の観察も良好な結果である。 ○飛行機雲の様子を観測データから考察する問いでは、気象の問題の中で唯一全国・県よりも1割程度正答率が高く、4割ほどであった。 ●気象については課題がある。天気図上の気圧と観測した気圧の異なる理由の理解や、気圧、気温、湿度等の変化を読み取り適切な天気図を選択する問題では全国・県よりも正答率が低かった。
生徒質問紙 理科に関する質問 問61～問69	○「理科が好き」な生徒は全国・県と同程度で65%ほどである。「理科の勉強が大切」と感じている生徒はそれよりも多く7割を超している。「普段の生活の中で活用できないか考える」生徒も6割近く居り、この気持ちを大切にしていきたい。

2022 年度(令和 4 度)全国学力・学習状況調査の結果分析 (生徒質問紙)

学校名 逗子中学校

特徴的なことや課題と考えられること等

「自分には良いところがある」と感じている生徒がほとんど(9割)で、全国・県と比較しても自尊感情の高い生徒が多い。「学校に行くのが楽しい」「友達と協力することが楽しい」生徒も多く、学校としては安堵するところである。一方、「先生は自分の良いところを認めてくれている」と2割以上の生徒が感じている点や、「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と思っている割合が全国・県より1割以上低い点は、学校として考えていかなければならない。

学校以外で学習する時間については平日2時間以上の割合が高い一方、全くしない生徒も相当数存在することは気になる。特に、自分で計画を立てて勉強する割合は全国・県よりも1割近く低く、自分で計画を立ててやったことをさらに振り返って改善するという力の弱さが見て取れた。

生活面では、就寝時刻が定まっていない様子が気にかかる。朝食をほとんどの生徒が食べてきていることは学校としてもありがたいことである。

総合的な学習の時間を含め様々な授業で、自分で考え、その考えをまとめ、表現する取り組みや、ICT機器を活用した学習等、学校として取り組んできていることは生徒にもよく理解されている。

2022 年度(令和 4 年度)全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 逗子中学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

生徒の興味を喚起できた授業、学習の楽しさを感じさせることができた単元については生徒の理解度が高いことが結果から読み取れることから、生徒の興味を喚起できる授業の研究を継続して行う。昨年度はICT機器を活用した授業づくりに重点を置いてきたことから、ICT機器の活用は進んだが、学ぶ楽しさの本質へ迫ることへの意識が希薄になった傾向は否めない。

いずれにしても、各教科で基礎・基本の定着を図る機会を増やしていく。特に国語では、漢字の読み・書きや語彙の幅を広げるための取り組みに今まで以上に力を入れていく。数学や理科においても、正答率の低かった単元の復習に取り組めるようにしていく。

学校全体で取り組んできている、「課題解決に向けて自分で考え、自分の言葉で表現すること」や「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする活動」は、生徒にも十分浸透していることが分かり、生徒自身も手ごたえを感じていることから、今後も継続していく。「他の教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる」ことも研究の成果として生きているので、学校の財産として意識して取り組んでいく。生徒の意欲を支えながら、思考を深めたり、文章を推敲する場面を増やし、それぞれの表現力を高めていく。